



常緑樹やササが生い茂り、うっそうとした暗い林



イノシシによって踏み倒された稲

里山の今
里山林の多くを占めるコナラ林やアカマツ林は、昭和30～40年代の高度経済成長期前までは薪や炭などの燃料を採取するための薪炭林、落ち葉などの肥料を得るための農用林として人間活動に利用されてきました。里山林は人々の生活と密接に結びつきながら維持され、ここでの暮らしは、まさに「持続可能な暮らし」そのものでした。
高度経済成長期以降、私たち人間のライフスタイルが急激に変化したために、薪や炭、落ち葉などの需要が減少しました。また、人口の流出による里山地域の過疎化やそこに住む人々の高齢化が進み、多くの里山林では管理が十分に行われない状態になってしまい、人の手が入らない放置されたところが増加していきました。

里山の今

荒廃した里山がもたらす影響

近年まで、里山は肥料に使う落ち葉やシイタケの原木など農業に欠くことのできない循環資源でしたが、里山に人の手が入らないことでの次のような問題が発生してきました。

【有害鳥獣】

現在、管理されなくなった里山はイノシシやシカなどの有害鳥獣の隠れ家となっています。かつては人々の居住地と深山の間には里山があり、動物たちが隠れることの少ない里山を通じて人々の居住地に現れることは多くはありませんでした。

しかし、手入れが不足しうっそうとした里山林がイノシシなどの隠れ家となり、獣と人々との境界がなくなり、全国的に農作物の被害が深刻化し、時には人的被害までも発生するようになってきました。

また、シカによる食害は、樹木を枯らしてしまふことによる農林業被害にとどまらず、列車・自動車事故など人々の生活に関わる被害も全国的に報告されています。

美里の里山の未来を考える

美里町は、南部の山間丘陵の森林や里山、そこから流れ出る中小河川、北部の水田地域など、豊かな自然の恵みを受けて、美しい景観を形成しています。

その中でも里山は、生態系の基盤や美しい景観形成に寄与しており、住民生活にやすらぎを与える大きな財産となっています。

しかし、近年では林業の衰退に伴い竹やササ・シノが生い茂り景観の悪化だけでなく、人の生活や生態系にも少なからず影響を与えています。

景観の向上や生物多様性の保全などの公益的機能の発揮に向け、荒廃してしまった里山を再生し保全することを考えなくてはなりません。

里山とは…

里山とは、人里近くにあつて人々の生活と結びついた山や森林などのことを指します。人の手が入っていない「手つかずの自然」ではなく、人が暮らしやすくなることによって作り上げられた自然環境を意味しています。
たとえば、燃料や肥料、食べ物のために人に利用されてきた雑木林や、人が暮らしやすくなるために必要な水田や畑を含んだ森林地域を里山と呼んでいます。

里山の中で見られる森林のうち、おもにクヌギ・コナラなどからなる落葉広葉樹林やアカマツ林のことを里山林と呼びます。

これらは、薪・炭などの燃料や、落ち葉などの農業用の肥料、シイタケの原木を採取する森林として、長い間、人の手が加えられてきました。



【不法投棄や犯罪】

荒れた里山は人が入ることが少なく、ごみの不法投棄の場選ばれやすくなります。不法投棄されたものの中に、有害な化学物質などが含まれていた場合、土壌や地下水、生物を汚染してしまう可能性があります。

また、うっそうとした里山の中やそこに面した道路は、人目につきにくくしばしば犯罪を誘引する原因となることもあります。

里山が抱える多様な問題が複雑に関係しあい、さらに問題を深めています。里山の荒廃は、里山地域だけでなく、広く、美里町の生活文化や環境にも悪影響を与えると考えられます。